

一般社団法人真山舎 (所在地: 東京都)

事業名 「リカバリーの学校@くにたち」と共生ネットワークの創設

事業の趣旨・目的

- ・「キョウドウを生きる暮らし」を実現するために、しょうがい当事者・学習者主体/参画の学びの場づくりを多様な立場・背景の人たちが共創する。
- ・キーワードは、対話を通じた「**リカバリー**」という学びと、「**共生圏の拡張**」が生まれる「**回遊性**」と「**越境性**」
- ・具体的な連携、事業成果、および研究成果を通じた**社会教育・市民活動分野と地域福祉・精神保健福祉分野のゆるやかな連携ネットワークの形成**

事業実施体制・連携先

実行団体: (一社)真山舎/連携: 国立市公民館、bumPo-伴歩/連携協議会: RGK学習者、国立市公民館社会教育主事、国立市公民館コーヒークラス、国立市しょうがいしゃ支援課、国立市社会福祉協議会、社会福祉法人多摩棕櫚亭協会、ソーシャルワーカー、一橋大学大学院教授

主な対象

精神/知的/発達/その他 (生きづらさがある人、支援者、市民)

活動分野

学習/スポーツ/普及啓発/その他 (交流等)

事業内容

〈当事者・学習者主体/参画の場を意図した複数の生涯学習プログラム〉

- ①当事者・学習者が中心となって運営する、対話と交流の場「**サロン「リカバリーの学校」**」 (全7回)
- ②ダイバーシティサッカー等で共生の学びを推進する「**プレイフルスポーツ・コーディネーター**」研修 (全2回程度)
- ③「やってみたい」「あったらいいな」という思い等をかたちにする「**学習者参画プログラム**」 (複数回)

〈「リカバリーの学校@くにたち」の成果を意味づけする成果報告会の開催〉

RGKや仮説的概念「共生圏の拡張」の説明、当事者/学習者・講師/ファシリテーター・市民それぞれの「共生圏の拡張」に関する個別エピソードを紹介。また、回ごとにさまざまな学問領域の研究者にご登壇いただき、RGKの成果の意味づけを行う。登壇者のトークセッションを通じて、仮説的概念「共生圏の拡張」が何なのかを多様な視点から考える。

事業終了後の目指す方向性

- ・社会教育・市民活動分野と地域福祉・精神保健福祉分野の連携のネットワークを形成する。
- ・「しょうがい等がある学習者」やそうではないとされる学習者が、共に学び合うことの重要性及びその意義を社会に啓発する。

その他

「リカバリーの学校@くにたち (RGK)」活動報告書-"変化の地図帳"



「リカバリーの学校@くにたち (RGK)」特設サイト



一般社団法人真山舎

